

# 教 育 研 究 業 績 書

令和 5 年 4 月 1 日

氏 名 金 谷 有 希 子

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
教育学	保育者養成、学外実習	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ① 学習効果促進のため学生一人ひとりに対する個別指導(面談等)の実施  ② ICT 機器の効果的な活用  ③ 実習記録及び指導計画案のフィードバック	令和2年4月～現在  令和2年4月～現在  令和2年4月～現在	学習効果促進のため、授業外における個別指導を常時行っている。特に、実習外部評価に課題のある学生には、空き時間やオフィスアワーを活用し個々に面談を行い、改善点及び自己評価と外部評価の相違点を見出せるよう指導している。 和歌山信愛女子短期大学保育科の専門教育科目「保育実習指導Ⅰ」・「保育実習指導Ⅱ」において ICT 機器を効果的に活用し、能動的な授業となるよう工夫している。また体験型授業を取り入れ、実践的に学ぶ場を設けることで知識や技術の定着を図っている。授業評価アンケート結果より、これらの授業内容が学生の満足度を高めたことが窺えるものとなっている。 学外実習に参加する際に必須となる実習記録の書き方や指導計画案の立て方について、より理解を深めるために、学生個々の実習記録や指導計画案を添削し、フィードバックしている。
2 作成した教科書、教材 ① ②		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ① 和歌山信愛女子短期大学保育科学生による授業評価アンケート結果における評価	令和5年2月	本学で実施された学生による授業評価アンケート(令和5年度)では、担当科目全て(保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育のこころ、基礎ゼミ)において各評価項目(授業の計画、授業の内容、教員の教え方、授業の成果)のポイントが全体平均を上回る結果となり、高評価を得ることができた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ① ②		

金谷 有希子

<p>5 その他</p> <p>① 第45回全国高等学校総合文化祭(紀の国わかやま総文2021)</p>	<p>令和2年10月 (開催日:令和3.07.31~08.06)</p>	<p>全国高等学校総合文化祭において供されるおもてなし弁当について高校生が自ら企画したものを本学が栄養士養成校の立場から安全面と栄養面、さらにコストやデザインについての指導を託された。各高校から推薦された弁当5タイプについて栄養安全面では食物栄養専攻が対応、コストやデザイン面では生活文化専攻と保育科が対応した。なお、今回の依頼先は和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課と近畿ツーリスト、並びにJTBからの要請によるものである。</p>
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<p>1 資格、免許</p> <p>① 保育士資格</p> <p>② 幼稚園教諭免許2種免許状</p> <p>③ 認定ベビーシッター資格</p>	<p>平成23年3月</p> <p>平成23年3月</p> <p>平成23年3月</p>	<p>和歌山県-008817 (和歌山県知事)</p> <p>平22幼二種第50号 (和歌山県教育委員会)</p> <p>第03105418号 (全国ベビーシッター協会)</p>
<p>2 特許等</p> <p>①</p> <p>②</p>		
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>①</p> <p>②</p>		
<p>4 その他</p> <p>①</p> <p>②</p>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 2 3				
(学術論文) 1 保育者養成における新入学生の意識の変遷－保育科入学生の意識を踏まえ効果的な実習指導を目指す－	共著	平成25年3月	和歌山信愛女子短期大学「信愛紀要」第53号 p. 51～p. 60	平成20年に幼稚園教育要領、保育所保育指針が改訂され、平成21年度から実践されている就学前教育は、今、教育の基本を踏まえ、求められる教育課題に向けた取り組みが展開されているところである。本学においても2年間という保育者養成期間の中で、今後の幼児教育の方向性を目指す保育者をいかに育てるかの大きな課題への対応が求められている。本研究は、実習指導の立場から、保育科入学生を対象に入学時の保育学生の意識の実態を把握するとともに、5年前に調査した2007年の入学生との比較検討を試み、加えて、1年次の教育実習後の意識の変化を分析し、今後の実習指導の方向性を見出そうとするものである。 共著者：小笠原眞弓、 <u>金谷有希子</u> 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 保育学生の意識の変遷と体力の年次推移－40年を振り返って－	共著	平成30年2月	和歌山信愛女子短期大学「信愛紀要」第59号 p. 1～p. 9	保育者養成機関として、社会情勢の移り変わりによる保育の在り方の変化を捉え、保育学生の実態を把握し、対象に応じた教育を編成しなければその時代に求められる保育者を養成することはできない。本研究は、40年に亘り本学保育科入学生に実施してきた「保育学生の意識調査」及び「体力診断テスト」を下にその変遷を辿り今後の養成の方向性を示唆する一資料としたいと考える。 共著者：森崎陽子、小笠原眞弓、 <u>金谷有希子</u> 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 未就園児（主に2歳児）の運動遊びについて－和歌山市・新宮市の子育て支援講座から－	共著	平成31年3月	和歌山信愛女子短期大学「信愛紀要」第60号 p. 1～p. 6	本研究は、地域（和歌山県）の活性化に寄与することを目的とし、乳幼児期からの家庭における運動経験の必要性を促すために行った実践活動を報告するものである。 和歌山市、新宮市の子育て支援の場を通して、未就園児（主に2歳児）の保護者を対象に、乳幼児期の運動機能の特

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>徴、運動の意義や遊びの環境づくり、関わり方を伝える講座を開設、同時に子ども達に2歳児の運動機能に配慮し考案した遊びの提供を試みた。また、日常生活行動の調査を実施し今後の改善点を見出す資料収集と分析を行った。</p> <p>共著者：森崎陽子、小笠原眞弓、<u>金谷有希子</u>、前島美保</p> <p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
(その他)				
「学会発表」				
1 実習体験を通して育つ保育者としての意識 -2年次の実習に向けての点検-	-	平成25年9月	全国保育士養成協議会第52回研究大会 (於サンポートホール高松・かがわ国際会議場)	<p>本稿は、実習指導担当の立場で現二年生の入学時の保育職などへの意識が一年次教育実習・保育実習を経てどのように変化しているかを明らかにし、二年次の仕上げとなる実習に向けて指導内容を検討工夫するものである。</p> <p>共同発表者：小笠原眞弓、<u>金谷有希子</u></p> <p>本人担当部分：アンケート調査、データ分析</p>
2 子育て広場の取り組みと地(知)の拠点整備事業COCへの展開	-	平成26年5月	日本保育学会第67回大会 (於大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学)	<p>本学「子育て広場」に参加した学生へのアンケート調査をもとに、子育て広場を通して学生自身が考える学びや課題について検討し、学生教育と子育て広場への接続について考察した。</p> <p>共同発表者：森下順子、森崎陽子、小笠原眞弓、田原淑子、<u>金谷有希子</u></p> <p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
3 実習事前指導における模擬保育の取り組み -学生の学びと責任実習への具体化-	-	平成26年9月	全国保育士養成協議会第53回研究大会 (於ホテルニューオータニ(福岡))	<p>二年次教育実習・保育実習の事前指導の一環として実践している模擬保育について、学生のアンケート調査結果を踏まえて、模擬保育で得られる学生の学びを明確にし、責任実習への具体化を期待しながら、より効果的な実習指導を探ることを目的に検討・考察を行った。</p> <p>共同発表者：小笠原眞弓、<u>金谷有希子</u></p> <p>本人担当部分：アンケート調査、データ分析</p>
4 保育現場と養成校の協働による保育者養成 -現場体験の取り組みと本実習への繋がり-	-	平成27年9月	全国保育養成協議会第54回研究大会 (於ロイト)	<p>本学では、近隣の保育施設の協力を得て、入学後間もない時期に学生を保育現場に送り出し、子どもと関わる体験を通して、乳幼児の特性や援助の方法を学ぶことを目的とした「現場体験」を実施し</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5 実習事前指導における模擬保育の取り組み(2)ー学生の学びと責任実習への具体化ー	ー	平成28年5月	日本保育学会第69回研究大会(於東京学芸大学・白梅学園大学)	<p>ている。</p> <p>本稿は、2年間の現場体験を振り返り、保育現場の体験が学生に与える影響と、本実習への繋がりを考察した。 共同発表者：森崎陽子、小笠原眞弓、<u>金谷有希子</u> 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>前回の研究を省み、今回はより多くの学生が模擬保育に参加できるよう、方法を改善した。またその効果を実習後調査し、責任実習との連続性についても追求した。</p> <p>その結果、実習前の模擬保育は多くの学びがあり、学生の自己課題を明確にし、実習に臨む意識の向上に効果があることが確認できた。また、グループで実践を試みた結果、教材開発や工夫の広がりも実証された。さらに、模擬保育で獲得した技術や知識を、責任実習において活用できたことも把握できた。 共同発表者：<u>金谷有希子</u>、小笠原眞弓 本人担当部分：研究全般</p>
6 保育者養成初期段階における現場体験の取り組みー本実習への繋がりー	ー	平成29年5月	日本保育学会第70回研究大会(於川崎医療福祉大学)	<p>平成27年度の研究に引き続き、今年度現場体験を振り返り、中間点、終了後の学生の意識の変容を確認し、本実習への繋がりに着目、その効果を明らかにした。学生は初期の段階の保育現場の体験であっても、子ども理解を深めるとともに、専門的気づきを得、保育職に対する意識を向上させたことが確認できた。また本実習との繋がりについても大変有効であることが改めて確認できた。 共同発表者：小笠原眞弓、<u>金谷有希子</u> 本人担当部分：アンケート調査、データ分析</p>
7 新任保育者6ヵ月目の振り返りと自己評価について	ー	平成30年3月	日本保育者養成教育学会第2回大会(於共立女子大学)	<p>現在、国は待機児童問題の解消策として保育者確保の為に様々な処遇改善を実施し、離職防止や養成校で学ぶ学生に対して保育施設への就職促進等の支援を図っている。しかしこのような政策だけで若手保育者が仕事を継続するとは言い難い。筆者らは予てより若手保育者の早期離職の要因は、保育者自身と職場の双方にあると考えてきた。本研究では、勤務半年を経過した新任保育者を対象に保育者自身の振り返り日常的に抱える不安や悩み、対処法について調査し、実情を把</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
8 実習事前指導における模擬保育の取り組み(3)－学生の学びと責任実習への具体化－	－	平成30年5月	日本保育学会第71回研究大会 (於宮城学院女子大学)	<p>握したいと考えた。さらにその結果を受けて、養成期間中の教育内容及び卒業後の保育者育成についても検討する。 共同発表者：小笠原真弓、<u>金谷有希子</u> 本人担当部分：アンケート調査、データ分析</p> <p>教育実習事前指導の一環として、模擬保育を実施し検討を重ねてきた。今回更に内容の充実を図る為に、主活動の分野の偏りを調整し、模擬保育を実践した。その結果を教育実習後の調査から確認、考察を行った。 共同発表者：小笠原真弓、<u>金谷有希子</u> 本人担当部分：アンケート調査、データ分析</p>